

## 第2章 キリスト者の生き方

「神の栄光を現す」、この目的のために私達キリスト者は生きています（2コリント 3:18; 4:5-6）。神は、神の名で呼ばれるすべての者を、神ご自身の栄光のために造られたとはっきりと宣言しています（イザヤ 43:7）。また私達を救ってくださった理由もまさにここにあるのです（エペソ 1:11-12, 14）。それゆえにパウロは、私達クリスチャンに対して、「あなた方は、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現すためにしなさい」と命じています（1コリント 10:31）。私達は、私達を創造し、罪から贖ってくださった主の栄光を現すために生きています。ですから私達の言動が、またその背後にある動機が常に神に喜ばれ、神の栄光を現すものであるならば、それはどんなにすばらしいことでしょう。確かに救われた今も、私達は肉のからだのうちにあるがゆえに罪を犯します。そして私達が天にあげられ、栄光のからだをいただいて、完全な者として常に神の栄光を現しながら生きることができるようになるときまで、罪との葛藤が続きます。しかし、私達の弱さ、愚かさを誰よりも知っておられる神は、そんな私達がどのように生きて行くべきかを教えてくださっています。神の栄光を現す生き方とは、実際どのようなものかを考えてみましょう。

### I. 神の栄光のために生きるとは

#### A. 礼拝者となること（救われること）

生まれながらの人間は、持っている罪のゆえに、神に敵対するものであり神に受け入れられることがありません。ましてや礼拝者として、神の栄光を現しつつ生きることなど決してできません。このような人間が、神の栄光を現す者になるには、まずこの神と和解することが必要なのです。自らの罪をはっきりと認め、その罪を悔い改め、キリストのなしてくださった贖いの業を信じ、このキリストに従っていく時、人は初めて、神を礼拝することのできる、神の栄光のために生きる者と変えられるのです。神の備えてくださった唯一の救いを受け入れることが、神の栄光のために生きるための絶対条件なのです<sup>1</sup>。

---

<sup>1</sup>救われるにはどうすればよいか \*付録(1)参照

## B. 日々靈的に成長すること:キリストに似た者となる

神は靈とまことによって礼拝する真の礼拝者を求めておられます。そして、この神の恵みによって救われた私達は、靈とまことによって神を礼拝できる者となりました（ルカ 19:10, ヨハネ 4:23）。また、神はみことばと聖霊を私達に与えてくださり、それによって、私達が靈的に成長し、キリストに似た者となって、真の礼拝者としての歩みをしていくことを願っておられます。なぜならば、神の栄光は私達がキリストのように、神に従い、主のみこころを行っていくときに私達の生涯を通して現されるからです。

それでは、神が喜ばれる真の礼拝者（靈的に成長した者）となるために必要なことは何でしょう。

## II. 靈的成長のために

何もしない人に靈的成長は無縁です。私達には靈的に成長し、神の栄光を現し続けるという責任があります。神は私達が主に信頼し、みこころにかなうように歩んでいこうとするとき、弱い私達に必要な助けを与え続けてくださいます。では、靈的に成長している人にはどのような特徴が見られるのでしょうか。靈的に成長している人に見られる八つの特徴を見てみましょう。

### A. 成長を望む

私達が成長するためにはまずそのことを求めることが必要です。パウロは、自分の信仰に甘んずることなく、常に成長を願い続けました（ピリピ 3:12-14）。またペテロも同様に、みことばを生まれたばかりの乳飲み子のように慕い求めることを命じています（1 ペテロ 2:2）。神の栄光を現す生涯を送るために、もっと神の栄光を現す者になりたいとまず願うことが大切なのです。

### B. 聖霊に満たされる

聖霊に満たされるとは、ちょうど酒に酔った者がアルコールによって体を支配されているように、私達の考え、思い、言葉、そして行動の全てを、聖霊なる神が支配することを言います（エペソ 5:18）。私たちに求められていることは、私達が自分の全てを神に明け渡し、聖霊

によって支配され続けることなのです。神の導きを信じて、思いも考えも行動も、全てを神に委ねることが大切です。聖霊に満たされた人には喜び、感謝があり、その人は従順な歩みをするとうわくは教えます（エペソ 5:18-21）。またみことばを蓄える時に、聖霊に満たされたときと同じ結果が生じることから、この二つが密接に関係していることがわかります。（コロサイ 3:16-17）。

## C. みことばを学ぶ

### 1. その大切さ

どうして神は私達に聖書を与えられたのでしょうか。私達が困ったときにだけ開いて慰めを得るためでしょうか。ただ心の騒ぎを沈めるためでしょうか。神が私たちに聖書をお与えになったのは、私達が創造された本来の目的であり、また生かされている最大の目的、つまり神の栄光を現す者となるためです。私達を造られた神はどのようなお方なのか、どのように生きることが神に喜ばれ、また悲しまれるのか、何が神のみこころなのか、それらのことがこの聖書に記されているのです。神は、私達の本当の必要、また弱さ、愚かさを重々承知の上でこのみことばを与え、私達が知らなければならぬこと、必要なことを教えようとしておられるのです。また、みことばによって教えられる神のすばらしい計画、約束は私達の信仰に強い確信を与えてくれます。

みことばには私達に対して、次のような特徴があると聖書は教えています。

！ みことばは私達に勝利を与える。この勝利とは、サタンに対して（マタイ 4:1-11）、悪霊たちに対して（ルカ 4:33-36）、そして誘惑に対して（エペソ 6:17）であると聖書は教えています。

” みことばは私達の成長の源である（1 ペテロ 2:2）。

# みことばは私達の力の源である（ヘブル 4:12、ローマ 1:16）。

\$ みことばは私達を導く（詩篇 119:105）。

このようなことをキリスト者の生涯にもたらすことのできるみことばは、私達にとって最も大切で、かけがえのないものです。また、もし私達が神に喜ばれる礼拝を捧げようと願うなら、私達はまずみことばを正しく理解し、そして、示される真理の土台にし

っかりと立つことが必要です。また、みことばを信じ、尊敬し（ヨブ 23:12; 詩篇 138:2）、愛し（詩篇 19:10; 119:97）、宣べ伝え（2 テモテ 4:2）、学び（2 テモテ 2:15）、また従い（1 ヨハネ 2:5, 6; ローマ 6:16）、その真理のために戦うことが必要です。みことばによって私達の生活の全ての面が支配されることが求められているのです。

## 2. 正しい態度

個人の学びであろうと、礼拝また各種の集会であろうと常に「主よ、どうぞお語りください。しもべはあなたのみ声を聞き、もっとあなたのことを知りたいのです」という積極的で、且つ謙虚な態度が必要です。そのためには、まず自らの心を探り、そこに潜む罪を告白して清められることが必要です。また、常に共にいて教えてくださる聖霊に寄り頼むという態度を失ってはなりません。

## 3. みことばの学び（付録@ みことばの学び方参照）

神に喜ばれる生涯がどのようなものなのかを教えてくれる聖書を学ぶことは、すべてのキリスト者にとって大切なことです。神が何を求めているのかを知ることなく、神に喜ばれる正しい礼拝生活を送ることはできません。それゆえに私達は、聖書を学ぶ必要があるのです。聖書をただ読むことが大切なのではなく、正しい理解と、伝えられている真理を、しっかりと私達の生活に適用していくことが大切です。

## D. 神に従う

### 1. みことばに従う者となる

ヤコブは、「みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってははいけません」（ヤコブ 1:22）と私達に訴えます。「みことばを学んではいても、自分の人生にそれほどの変化をもたらさない」、「信仰生活に力がない」、というような問題の原因は、みことばをただ聞いているだけで実行しないところにあります。このようなことがおこらないために、次にあげる3つのことが必要です。

#### (1) 瞑想

まず個人のディボーションや集会で語られたみことばをじっ

くりと瞑想することが大切です。実行する気持ちがいくらあっても、何をすべきなのかをすぐに忘れてしまっていては出来ません。神が語ってくださったことをしっかりといつも覚えることが必要です。

## (2) 決心

実行しない理由のひとつに「したくないから」というのがあります。これでは何も望めません。神に逆らっている人には神の祝福が与えられません。それが証拠にその人から喜びや、感謝が奪い取られてしまいます。ある人は、「やれるかどうか分からないから」と、心配ばかりが先にたって何も出来ないでいます。また「私には出来ない」と、初めからあきらめている人がいます。神は私達がどんなに弱いのかを知っておられます。その上で、従いなさいと言っておられるのです。神の言われたことに「はい、主よ」と言って従順に従おうとする決心、そしてその決心を実践していくことが必要です。

## (3) 祈り

実行するために必要な力を与えてくださる神の助けを求めることが必要です。私達の力には限界があります。しかし神はその弱い私達のうちに働いて業をなしてくださるのです。私達がこの神の備えてくださる力によってすべてを為すとき、その神の御栄が現されるのです。

## 2. みこころに従う者となる

救われる前の私達は神のみこころを全く無視して自分の思いのままに生きて来ました。人生の目的は自分を喜ばせるというものであり、そこには神を思う気持ちなど微塵もありませんでした。しかし、救われた私達は、そのような生活に背を向けて新しい歩みを始めたのです。自分の計画にではなく、神の計画、つまりみこころに沿って歩む生活です。その大切さは次のことから分かります。

### (1) みこころの大切さ

(a) 私達は人生を計画する資格がない (エレミヤ 10:23)

(b) 神だけが未来を知っている (イザヤ 46:9, 10)

- (c) みこころは人生に祝福をもたらす (詩篇 119:97-100)
- (d) みこころは死後に祝福をもたらす (1 ヨハネ 2:17)
- (e) みこころを知ることを神は望んでいる (コロサイ 1:9)
- (f) みこころを知ることを神は命じている (エペソ 5:14-17)
- (g) みこころに従うことを神は命じている (エペソ 6:6)

神のみこころを知り、それを実践することは、私達がクリスチャンとして神の栄光を現しつつ生きていこうとする上で、とても大切なものです。上記のように、神は私達の生涯をその完全なる知恵によって計画し、目的を持って導こうとされています。私達がみこころを知り、そしてそのみこころに沿って生きることを神は望んでおられるのです。それゆえに、神は求める者に必ず、みこころを示してくださいます。

## (2) みこころを知る方法

方法については、状況を通して、つまり神が道を開いたり閉じたりすることや、信仰の先輩達やみことばによって等と様々な事が言われていますが、最も大事なことは「私は本当にみこころを知りたいかどうか」、また「私は、神がみこころを示されるにふさわしい歩みをしているかどうか」なのです。私達はよく「みこころ」という言葉を耳にしたり、また口にしたりします。しかし神は、私達が本当に神のみこころを求めているのか、それとも自分の願いがみこころとなることを願っているのかをご存知です。ですから、「みこころ」を口にする前に「私は本当に神のみこころを知ることが心から願っているのか」を、自分自身に問いかけ、心を探ってみることが大切です。自分の本当の思いを知るために、「この願い求めていることがみこころでなければ、私は喜んでそれを捨てることができるか？たとえどのようにつらく、悲しくてもみこころに従っていくか？」と問いかけてください。きっと心の本当の動機が見えるでしょう。

またみこころを知るために、私達は神が望まれている歩みをしていることが大切です。神は聖書を通してはっきりとそのみこころを示しておられます (例: 1 テサロニケ 4:3; 5:16-18)。

私達がこのような「ふさわしい歩み」をしているとき、神はそのように歩んでいる者の心に、ご自身の思い、つまりみこころを与えてくださるのです。そしてみこころに従うとき神のすばらしい祝福、すなわち神ご自身の喜び、感謝、平安がその人に与えられます（詳しくは、付録（3）を参照）。

### 3. 正しい選択

私達は毎日数え切れないほどの選択をしています。それは、衣食のように小さな事から、死活に関わるような大きな事まで様々です。また神との関係だけに限って見ても、私達は日々数多くの選択をしていることに気づきます。「神に逆らうことをしよう」、「悔い改めずに逆らい続けよう」、「人をねたもう」、「悪口を言おう」、「赦さないでおこう」、「落ち込んでいよう」等等。神を日々覚え礼拝をする人は、たとえどのような状況でも、何が起ころうとも、たとえ失望するようなことがあっても、常に神が喜ばれることは何か、またどういう選択をすることが神に喜ばれるかを考えます。そして、正しい選択を毎日の生活の中でなしていくときに、神のすばらしさがこのような人を通して現されるのです。

## E. みことばを語る

### 1. 信者へ:お互いの成長のため

みことばは「教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益」（2 テモテ 3:16）であると聖書は教えます。信仰の成長にみことばは不可欠なのです。

#### (1) みことばを伝える

みことばを学んだ人の責任はそれを他の人に伝えることです。その方法は「自らの実践」と「教えること」によってです。私達がみことばを実践するとき、神はその人の内に働かれます。そして、みことばの真実さが人々に明らかになります。また、自分の言葉ではっきりと語ることでその真理が明らかになります。信者がみことばをもって互いを養い、みことばにそった生き方をするなら、そこに私達は、すばらしい成長を見ることでしょう。

## (2) みことばによって励ます

私達が問題に直面したとき、またそのような兄弟姉妹を励ますようにするとき、まずみことばがどのように教えているかを個人で、またその人と一緒に探ることが大切です。その上でその教えに従って行けるようにと、お互いに励まし合い、また祈り合うのです。

## 2. 未信者へ:伝道

「神は全ての人々が救われて真理を知るようになるのを望んでおられます」(1 テモテ 2:4)。そしてこの福音のメッセージを全ての造られた人々に語るようにとの命令を、イエスは信者一人一人に与えられました。その方法は「生き方」と「教え」です。私達が、神を愛し、畏れを持って従っていくとき、神は私達をイエス・キリストに似た者と変えて下さいます。そのとき、この方のすばらしさが人々に証明されるのです。また、はっきりと言葉で語ることが必要です。神が語るべきことを、語るべき方法で語らせてくださることを信じて、大胆に語る必要があります。また私達の責任は福音を伝えることであり、救うことではないことをしっかりと覚えて置かねばなりません。そうしなければ、「語っているのにだれも救われない」と言って失望することになってしまいます。神がこのすばらしいメッセージを語るという特権を与えてくださったことに感謝し、そのメッセージが用いられることを祈り期待しながら語り続けることです。

## F. 祈る

### 1. 祈りとは

祈りとは生きた真の神様への礼拝であり、そのお方との個人的な交わりです。また、この神様のすばらしさ、偉大さを神ご自身に証していただく機会でもあります。

### 2. 正しい祈りとは

自分の必要や要求だけを祈るという、利己的な祈りは正しい祈りではありません。私達の生きている目的が神の栄光のためであり、そのために全てのことをする以上、当然祈りもその中に含まれます。祈りを通して神の栄光が現されることを念頭に置かなければ

ばならないのです。正しい祈りの最高の例は、主イエスが弟子達に教えられた、「主の祈り」と呼ばれているものでしょう。イエスは、私達がこの言葉通りに祈るようにと教えたのではなく、この祈りの模範に倣って祈るためにこの祈りを教えられました。この模範的祈りが教える3つのことを覚えてください。

(1) あなたに与えられた特権を知る

全てを創造し統べ治めておられる全知全能の真の神が、あなたのために時間を作ってください、交わってくださいというこの信じ難い特権を覚えることです。また、このように偉大な神を「アバ」つまり「お父さん」と呼ぶことの出来る関係に入れてくださったことも覚えて感謝するのです。

(2) 神を崇める

あなた自身の願い事を言う前にまず、あなたと交わってくださるこの神がどんなに偉大な方かを考えて、心からの畏れを持って称え、崇めることです。

(3) 神の栄光が現されることを期待する

どんなことでもこの神の前に持って行ける、つまり祈れるということは私達にとって大きな祝福です。私達の必要も、慰めも、励ましも、助けもどのようなことでも神に祈り、委ねることが出来ます。また熱心に祈り続けることも大切です。しかし、それだけが祈りだとするならそれは間違いです。なぜなら祈りとは、私達の必要、また欲しいものを得るための魔法ではなく、神ご自身の栄光を現す機会なのだからです。私たちは、望むものが与えられなかったとしても、神の栄光があらわされるならば、そのことを喜ぶはずです。ゆえに私達の必要を神に祈るとき、「私の全ての必要を御存知の神よ、私の全てはあなたのものであります。あなたは必ず必要を与えてくださることを信じています。しかし私が心から望むことを、もし与えないことがあなたの栄光を現すのでしたら、どうぞ与えないでください。そして与えてくださるのなら、どうぞあなたの栄光が最も現される方法で与えてください。」と祈りましょう。

## G. 罪を告白する

### 1. その意味

「告白」と訳されている言葉は、「同じことを言う」、「同意する」という意味です。つまり自分の罪に対して神が言われることに同意することです。そのためには神がご覧になると同じように、正直に自分の罪を見ることが必要です。

### 2. その大切さ

「主を恐れることは悪を憎むことである」(箴言 8:13)、とあるように私達は罪から離れることが必要です。私達の聖い神はたとえそれがどんなに小さな罪でも見逃すこと、裁かずに放っておかれることはありません。神はアカンの罪を(ヨシュア 7:19)、またエリの子供達を(1 サムエル 4:11) 裁かれました。神は罪を憎まれます。神を礼拝する人は、その愛する神と同じ思いを持つことが必要です。つまり神の愛するものを愛し、憎むものを憎むのです。そのためには、(1)神を覚える:私はどのような神を信じたのか。また、どのような神が私の心から、言動に至るまでの全てを、日々見ておられるのかを常に覚えておくことが必要です。(2)罪の結果を覚える:私の行為が善であれ、悪であれキリストの裁きの座で必ず裁かれることを覚えておくことが必要です。「私達はみな、キリストの裁きの座にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです」(2 コリント 5:10)。全知の神の前ではどのような弁解も決して通りません。「造られたもので、神の前で隠れおおせるものは何一つなく神の目には、すべてが裸であり、さらけ出されています。私達はこの神に対して弁明をするのです」(ヘブル 4:13)。また、(3)ダビデのように心に潜むどんな罪でも示していただくことを求めることも必要です(詩篇 139:23, 24)。そして、\$ 罪は弁解せずすぐに告白する事が必要です(1 ヨハネ 1:9)。

## H. 靈的賜物を用いて仕え合う

神が教会に与えられた、使徒・預言者・伝道者・牧師/教師達は、みことばを教えることによって、キリスト者達を整えるという大きな責任を持っています。この責任が彼らに与えられたのは、彼らの教えを通して、すべてのキリスト者が奉仕の働きをするためです(エペソ

4:11-12)。キリスト者はみな働き人であり、お互いの霊的成長のために必要です。パウロはローマ 12 章で、人のからだを用いてそのことを教えています (4-8)。また、ペテロも、すべてのキリスト者が神が与える霊的賜物の管理者であり、それを持って互いに仕え合う奉仕者であると教えています (1 ペテロ 4:10, 11)。各自がそれぞれに与えられた霊的賜物を用いて互いに仕え合うとき、その群全体が成長します。霊的賜物とは、「神が、奉仕のためにすべての聖徒達に与えた能力」です。パウロは 1 コリント 12:4-7 で、四つの言葉を用いて霊的賜物について次のように教えています。

- 「賜物」 [カリスマ (charisma)] 4 節: カリスマとは「恵み」という意味を持っています。つまり、霊的賜物は私達の希望によって与えられるのではなく、神の一方的な恵みによって与えられたものであることをこの言葉は示しています。

- 「奉仕」 [ディアコニア (diakonia)] 5 節: この言葉は、「仕える、奉仕、援助、世話」という意味です。つまり、賜物は自分のために用いるのではなく、人のために、人に仕えるために与えられたものであることを示しています。

- 「働き」 [エネルゲオ (energeo)] 6 節: この言葉は、「働く、活動する、力を発揮する」という意味を持っています。つまり、この奉仕は、神の力によって力づけられて行うものであることを示しているのです。

- 「現れ」 [ファネロシス (phanerosis)] 7 節: これは、「明らかにする、公表、顕現」という意味を持っています。つまり、賜物はそれを用いて働かれる聖霊なる神のすばらしさを、周りの人々に明らかにするために与えられたものなのです。

この霊的賜物とは、人が救われたときに神が与えてくださるもので、救われる前から持っていたものではありません。救われる以前に持っていた才能をその後神は用いてくださることがあります。しかし、これらの才能は、霊的賜物ではないのです。あなたに与えられた賜物が何か今分からなくても、「主よ、どうぞ人のために私を用いてください。自分の霊的成長のためではなく、誰かの成長のために私を用いてください。何かさせてください。」という祈りと願いを持って、何で

も喜んで、また自ら進んでする事が大切です。またそれによって、自分に与えられている賜物を知ることができます。

### Ⅲ. キリスト者の目標:神の栄光を現す人となる

神の栄光を現す人は、性質や行いにおいて神に似ている人です。神の御性質には決して人には分け与えることのできない神だけのものがあります。たとえば、遍在（詩篇 139:7-10）、永遠（詩篇 90:2）、自存（イザヤ 41:4）などがあります。しかし神の持っている属性の中には私たち人間も持つことのできるものがあります。それらは、知恵（ダニエル 2:20）、真実・誠実（申命記 32:4; 詩篇 31:5; ヨハネ 3:33; 1 コリント 10:13）、愛（1 ヨハネ 4:16）、善（詩篇 27:13）、義（詩篇 4:1; ローマ 3:26）、憐れみ（出エジプト 34:6; 2 歴代 30:9）、聖さ（1 ペテロ 1:16; 詩篇 99:3）、忍耐（ローマ 15:5）、平安（ヘブル 13:20; イザヤ 9:6）、親切（エペソ 2:7）、柔和（マタイ 11:29）、喜び（詩篇 16:11）、赦し（ネヘミヤ 9:17）などです。このような神の御性質が、キリスト者のうちに形成されていくことを神は望んでおられます。また全てのキリスト者は、このような人に変えられていくことが可能なのです。そのために神はそれぞれの内に聖霊なる神を、またみことばを私たちに与えてくださいました。みことばを理解するために聖霊なる神が、また長老（監督・牧師）が与えられました。そして、共に祈り励まし合うために神は、兄弟姉妹を私たちに与えてくださいました。神は全てのキリスト者に、この命令を与えられました。なぜなら、このような人に変えられることによって神の栄光が現されるからです。